



病と闘う子どもと家族のサポートハウス

# パンダハウス

## News Letter

vol. 16 2023年3月号  
(年2回3月、9月発行)

HP QRコード



発行

認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会 事務局  
TEL 024-548-3711  
〒960-8157 福島県福島市蓬萊町八丁目15番地1

HP <https://pandahouse.org>  
facebook <https://facebook.com/npo.panda.house>  
E-mail [office@pandahouse.org](mailto:office@pandahouse.org)

## 令和5年度の取組について

理事長  
山本 佳子

新型コロナの感染予防を最優先課題にしてから、もう3年になります。宿泊事業の方はそのため1棟1家族(2棟で同時には2家族)に限らせていただいています。もちろん、その上で利用希望があれば相談に応じ、状況を見ながら対応するようにしてきましたが、以前に比べると宿泊の利用は少なくなっております。

一方、相談業務の方は安定し、治療継続のための支援や、生活・経済的支援から心理支援まで、年間617件の相談に応じました。

病院内にある福島県立須賀川支援学校医大校にご利用いただくなど、病院の方々との連携も、ますます強まっているように思います。

イベントなどの広報活動ができないことは、大きな痛手ではありましたが、その期間に2ヶ月に1回の「オンライン茶話会」を立ち上げました。水曜日や土曜日の11時から1時間で、ボランティア説明や会の活動報告などを和気藹々として行っております。

また、初めてクラウドファンディングにチャレンジし、皆様の応援をいただきながら闘病中の子どもたちの作品をバーチャル美術館に展示できたことも、以前なら考えもしないことでし

た。ただ、私も含め、ネットなどを使いこなすのはなかなか大変なことです。そこで、ボランティアさんを始め、パソコン・スマホ勉強会を開催することにいたしました。今後、希望される方にはどんどん学び、使い慣れていただけるように輪を広げていきたいと思っております。

先日は全国の仲間たちの「JHHH;日本ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス」の集いがありました。コロナ禍で、闘病中の子どもや家族のニーズは変化してまいります。「医療的ケア児支援法」も施行され、県内の会の事務局としてお手伝いさせていただいております。

時代の流れと共に、闘病中の子どもやご家族のニーズは様々変化していますが、「大変な時こそ、最高の環境を」という当会の原点を忘れず、彼らの応援団であり続ける所存です。

引き続き、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いたします。



### 令和4年度収支報告とパンダハウス利用状況 (自 令和3年10月～至 令和4年9月)

#### ●利用者数と居室稼働率

家族数	94家族
延べ人数	840人
稼働率	14.0%

#### ●地域別利用者数

	家族数	割合
福島県内	57	60.6%
福島県外	37	39.4%
国外	0	—

#### ●決算報告書(収支報告)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	2,691,000	事業費	12,717,165
寄附金	16,264,588	管理費	1,540,266
助成金	3,590,000	法人税	72,000
事業	659,072	積立基金	7,002,292
その他	9,803	過年度損益修正損	647,000
前期繰越	10,236,709	次期繰越	11,472,449
収入の部合計	33,451,172	支出の部合計	33,451,172

注:新型コロナウイルス感染防止対策実施  
増築棟・新築棟、それぞれ1日1室利用に限定した。

### 令和5年度事業実施方針 (令和4年10月1日～令和5年9月30日)

- 1 難病と闘っている子ども及びその家族の多様化したニーズに応えられるように、地域連携の基盤を作りながら、ハウスの宿泊利用と相談支援の充実を継続する。
- 2 長期的に安定した運営を継続できる体制作り及び広報活動の充実を図りながら、コロナ禍における活動を継続する。

注:当会の事業年度は、毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終わる。

賛助会員への加入と  
ご寄附のお願い

#### 賛助会員年会費

個人:(1口) 3,000円(1口以上)  
団体:(1口) 10,000円(1口以上)

#### 年会費・寄附金振込先

郵便為替口座 口座記号番号:02200-9-110330  
加入者名:認定特定非営利活動法人  
パンダハウスを育てる会

\*他金融機関から、郵便振替の場合  
店名:二二九(二二キユウ)店 当座預金 0110330

## 25周年おめでとうございます

福島県保健福祉部  
部長

國 分 守



パンダハウスの活動が昨年10月に25周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会の皆様には、日頃から小児がんの県民の理解促進など、小児がん対策の推進に御協力いただいております。厚く御礼申し上げます。

また、パンダハウスの運営を通して、入院で心細い思いをしている子どもと御家族がゆっくりとくつろげる時間を過ごせるよう支援を続けておられることに深く敬意を表します。

パンダハウスは、自宅から遠く離れて病氣と闘う子どもとその御家族が安心して滞在できる宿泊施設として、オープン以来、三万人以上の方が利用されたと聞いております。

利用した方からは、スタッフの皆様の温かい対応に対する感謝の声であふれており、多くの方々の支えとなっていたことを大変心強く思っております。

施設を利用される子どもたちは、治療を終えた後も医療的ケアが必要であったり、日常生活を取り戻すことが困難であったりと、様々な事情を抱えております。

その御家族も、退院後も家と病院を往復する生活を余儀なくされ、自宅でも子どものケアなど治療中心の暮らしになってしまうことで、地域社会からの孤立を感じられることもあるようです。

こうした中、病氣と闘う子どもとその御家族には、地域全体で切れ目のない支援を提供することで、子どもの成長に伴い生じる様々な不安を軽減することが重要と考えています。

パンダハウス相談室も小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の拠点の1つとして活動され、入院中だけではなく、退院後においても復学や就労など、子どもたちのライフステージに寄り添ったパートナーとして継続的な支援をされております。

さらに、全国の医療的ケア児とその御家族、福祉や医療関係者などの支援者を1つにつなぐネットワークである「全国医療的ケアライン」における福島県の窓口を「福島アライオン」として担うなど、多大な御貢献をいただいております。

県といたしましても、病氣と闘う子どもとその御家族の負担軽減のため、パンダハウスの取組みを支援しているところであり、パンダハウスが、今後も多くの患者さんとその御家族に安らぎの場を提供し、もう一つの我が家として子どもたちを温かく見守っていただくことを御期待申し上げます。

結びに、パンダハウスを育てる会のますますの御発展を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。

## パンダハウスへの想い

公立大学法人福島県立医科大学附属病院  
患者サポートセンター  
造血細胞移植コーディネーター(HCTC)

安 齋 紀

「パンダハウス」それは一言でいえば「希望」です。

「パンダハウス」は、福島医大病院で治療を受ける病気の子どもだけではなく、その家族にとってもかけがえのない存在であることを、臨床の現場ですっとみてきました。当院の小児腫瘍内科では、難治性血液疾患の治療のために全国から病気のお子様を受け入れています。家族や友達と離れ、遠い福島の地で辛い治療を受ける時、支えになるのは医療者だけではありません。この「パンダハウス」がとても大きな支えであり、治療を受ける県内のお子様とご家族にとっても、同じことが言えます。

Aちゃんは、お薬が苦手でした。治療後に点滴が少しずつ減ってきましたが、どうしても飲めない薬がありました。そんな時担当の先生から、飲めるようになったら「パンダハウス」に行ける!と聞いて、頑張ってお薬を飲むことができるようになり、最高の笑顔で「パンダハウス」に行きました。

Bちゃんは、病院の食事は少ししか食べられませんでした。が、「パンダハウス」に行ったら食べたいものをお母さんに

注文し、おなかの調子が心配なくたくさん食べて帰ってきました。

Cちゃんは、治療後の具合が悪く、遠方から妹のDちゃんがお父さんと会いに来てくれました。そして付き添いのためずっと離れていたお母さんとDちゃんが、「パンダハウス」に行くためにバス停で手をつないで立っていた後姿が忘れられません。

Eちゃんは、パンダハウスのリーフレットを自分の宝箱に入れていました。Eちゃんの夢は叶いませんでしたが、きっと「パンダハウス」に時々こっそりお邪魔しているかもしれません。

「パンダハウス」のホスピタリティは簡単にいうと「もてなし」ですが、けして一方通行のもてなしではなく、そこに関わる多くの人々を豊かにしていくのだと思います。今日も私は「パンダハウス」に行きたいんです、と声をかけられるのを待っているし、「パンダハウス」に行ってみない?と声をかけています。パンダハウス最高だよ!と自信をもっていえることに感謝しながら。



# 活動報告

2022年10月～2023年2月

万全な新型コロナウイルス感染防止を行い、ボランティアさんと共に活動しています！

## 第35回「ふれあい広場」に参加しました

2022年10月2日(日)福島市の「道の駅ふくしま」にて開催されました。

当日は晴天に恵まれ、子ども連れの来場者が多くボランティアさんに準備していただいたかわいい風船も大好評でした。



## リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022福島に参加しました

2022年10月2日(日)福島県あづま総合運動公園にて、13回目となるリレー・フォー・ライフが実施されました。

久々の野外での開催となりましたが、晴天にも恵まれ参加されたボランティアの皆様と共に、がん患者支援活動に協力することができました。



## ふくしま市民活動フェスティバル2022に参加しました

2022年11月3日(祝・木)福島市のMAXふくしま4階アクティブシニアセンターA・O・Zにて「ありがとう」をつなぐ市民活動にパンダハウスも参加しました。

福島市で活動する42団体が参加され、それぞれの活動を紹介していました。

アマチュア演奏家や箏男Kotomen演奏なども披露され、久々の楽しい催しとなりました。



## ハウス花壇の整備と外装清掃を行いました

2022年11月19日(土)盲目のランナー星純平さんのチームにより、花植えとハウス内外の清掃を行っていただきました。花がハウスを彩ってくれています。



## 闘病中の子どもたちにクリスマスプレゼント！

2022年12月9日(金)福島県立医科大学附属病院小児病棟で治療をされている子どもたちに、ボランティアさんが作ったクリスマスカードとプレゼントをお渡ししました。

子どもたちは「いろいろ選べて楽しい!」とはしゃいでいました。



## 大人も感動する、大きなクリスマスツリー！

今年も東邦銀行シーガルテニスクラブの皆様にご協力いただき、大きなクリスマスツリーを設置していただきました。玄関ではかわいいクリスマスリースと雪だるまが利用者さんをお出迎えしています。



## パンダハウスオンライン茶話会

2023年1月11日(水)Zoomミーティングシステムを使ったオンライン茶話会を開催しました。今回のテーマは2022年12月12日にオープンした「パンダハウスバーチャル美術館」です。

開催に向けた資金調達から子どもたちの作品募集、パンダハウスでの展示・撮影、そして開設までの裏話をプロジェクトメンバーに話していただきました。

参加された皆様から「良くできていますね!」とお褒めの言葉をいただきました。



ボランティアルームの参加者



## 利用者さんの声

お腹の赤ちゃんが18トリソミーで、重度の心疾患があり、産まれてもどうなるかわからないという大きな不安を抱えて、パンダハウスを利用しました。遠方を通うのが大変だった私たち家族にとって、赤ちゃんのもとにすぐ駆けつけることができるパンダハウスはとても支えとなりました。施設内はとても明るく清潔で自宅にいるような雰囲気とても安らげる場所となりました。また一緒に宿泊した幼い息子もパンダハウスのおもちゃが気に入り退屈することなく過ごすことができました。スタッフの方も温かくとても親切に迎えて下さいました。また費用も安く助かっています。小物一つ一つにも愛情がこもった手作りで、心がほっこりします。パンダバッチ大切にしたいと思います。

これからも一人でも多くの利用するご家族を支えていって下さい。

娘の造血幹細胞移植の前の一時退院でお世話になりました。

コロナ等もあり自宅に帰るのはやめた方がいいと言われパンダハウスで2人でなら許可をもらう事ができました。

この様な施設があり、長くなる入院生活の娘に食べたい物を食べさせてあげることができました。そしてたくさんのおもちゃで思いやりの設備で、安心して、たのしい自由な時間をすごす事ができました。

感謝の気持ちでいっぱいです。そしてまたパンダハウスに来たい!がんばろー!!と目標もできました。

利用にあたり施設の方にもとても親切にいただきました。ありがとうございました。

# 「病と闘う子どもときょうだいの作品展」

## パンダハウスバーチャル美術館をオープンしました!

2022年12月12日(月)パンダハウスバーチャル美術館をオープンしました。

コロナ禍で病院から外出が制限されている闘病中の子どもたちに作品作りの楽しみ、また自分の作品が展示される楽しみを提供したいとの思いから、パンダハウスを美術館に見立て、病室からでも観れる作品展パンダハウスバーチャル美術館を開設しました。(2023年3月末日まで開催予定)

応募者みなさんにお気に入りの作品をポストカードにし、クリスマスに合わせてお届けしました。



### アクセス方法

1 パンダハウスホームページ「パンダハウスバーチャル美術館」バナーからアクセスします。

2 アクセス画面からバーチャル美術館に入る。BGMを再生する。



3 ハウス正面玄関◎をクリックする。



4 館に入るとパンダマーク◎があるのでクリックする。



5 作品が画面にポップアップされ、作品が紹介されます。



# 子どもたちの作品展を「コラッセふくしま1階」で開催します!

2023年3月24日(金)から3月28日(火)福島駅西口近くにある「コラッセふくしま」1階アトリウムにて開催します。

パンダハウスバーチャル美術館の作品と新たに応募していただいた作品を展示します。

### 開催日時

2023年3月  
24日(金) 10:00~16:00  
25日(土) 9:00~16:00  
26日(日) 9:00~16:00  
27日(月) 9:00~16:00  
28日(火) 9:00~15:00

### 会場へのアクセス

福島県福島市三河南町1番20号

- JR福島駅(東北新幹線、東北本線、奥羽本線) 西口より徒歩3分
- 東北自動車道 福島西IC、飯坂ICから車で約15分
- 駐車場
  - コラッセふくしま有料駐車場利用可(30分まで無料、以降30分毎100円※共通駐車サービス券が使用可能)
  - 近隣に有料駐車場(民間)あり(30分100円~150円)
  - 場所は下記拡大案内図をご覧ください。

### 編集後記

地元ラジオ局フリーアナウンサーの大和田新さんからいただいた「てあらい、うがい、わらい」のポストカードをハウス玄関などに掲出しています。このカードを見ながら利用者さんから声を掛けられました。「孫が病気になってから、私、笑ってないことに気がきました。このハウスに来て、これを見て久しぶりに笑いました。どんな時でも笑顔が必要ですね」

小さなことですが、家族の思いや心情に心打たれました。パンダハウス事務局



※イメージ

